

図書だより

<第40号>
平成12年11月1日
呉工業高等専門学校
図書委員会



「沖縄の海（夕ぐれ）」 撮影：呉高专写真部員

沖縄ではめずらしくおだやかな東シナ海へ沈む夕日と浜辺の岩場がかもす影のコントラストが心に残りました

目 次

【巻頭文】

書物の読み方 校長 長 町 三 生 ... 2

【読書感想文】

『最後の将軍—徳川慶喜—』(司馬遼太郎著) を読んで ... C 1 浜 中 唯 ... 3

『そういうふうにてきている』(さくらももこ著) を読んで ... A 2 森 川 友紀子 ... 4

プラトンの対話篇『饗宴』(プラトン著) を読んで A 3 米 司 晴 恵 ... 4

『バイセンテニアル・マン』(アイザック・アシモフ著) を読んで ... E 4 川 浪 徹 ... 5

『朗読者』(ヘルムット・シュリッホ著) を読んで M 5 角 田 佳 子 ... 6

『人間失格』(太宰 治著) を読んで 専攻科 機械電気1 野 田 善 友 ... 6

【新任教職員の随想】

「読書のすすめ」..... 一般科目(英語) 江 口 誠 ... 7

「書くためにも読書」 建築学科 砂 本 文 彦 ... 7

【留学生が見た外国図書館】

「マレーシアの国立図書館 (National Library)」 C 4 ア イ タ ... 8

【在外研究員報告】

外国の図書館紹介 建築学科 間 瀬 実 郎 ... 9

【新着図書10選】 10~11

【お知らせ】

1 平成11年度 図書館利用状況 12

2 図書館への入館及び図書貸出方法の変更について 12

3 呉高专図書館ホームページをご存知ですか? 12

【編集後記】 図書館長補 宇 根 俊 範 ... 12

巻頭文

書物の読み方

校長

長町三生



2年前のことになるが、乙武洋匡さんが執筆した「五体不満足」(講談社)が出版された直後に、この書物を読んだ。下半身がない不自由な身体で子どものときから生まれてきた様子が書かれているのだが、身体障害者というだけで暗いイメージを想像させるのに、乙武君は生来の明るい性格に助けられて、前向きで生きようとしている姿が手に取るように伝わってきた。

もともと心理学や人間工学を学んできた自分にとっては、正常な人たちや正常な世界の裏側に大変興味があり、身体障害者や知的障害者の世界には好んで飛び込み、学問サイドからの協力も含めてボランティア活動をしてきた。たとえば大分市に整形外科中村医師が障害者のために設立した「太陽の家」があるが、これは身体障害者が生きてゆくために工場に大勢の障害者を雇用して、みんな働いて食べてゆけるようにしたものであり、彼らの労働生活を容易にするため人間工学的課題が沢山ころがっている。その協力に出かけたわけである。広島にも吉田クリーニングがそうだが、200人の従業員のうち半数が身体障害者や知的障害者である。病院用のシーツを朝から晩までローラにかける人や運搬用台車に乗って「行け」と旗を振る仕事だけ(?)をしている知的障害者などが、健常者と仲良く明るく働いている。そこにも仕事を楽にする人間工学的課題があって、お手伝いに出かけたものだ。

乙武君の場合には、下半身の代わりに電動車イスを他の人の助けで考案したことが、彼の生活の広がりにとっても有益になっている。障害者は閉じこもりがちになるのだが、多くの人々との関

係をもったり、外の広い世界と交流することが障害者が生活に生き甲斐をもつ助けとなる。

最近出版されて話題をさらっているのが、大平光代さんの「だから、生きぬいて」(講談社)である。この書物の内容はある経緯で学校や家族に不信感を抱いた本人は不良の仲間入りをし、後に暴力団員の妻にもなるなど裏側の世界の生活をするうちに、目醒めて司法の世界へ戻ってくる話であり、心が癒されない若者に光を与えてくれる書物である。

世の中には自分だけが不幸だと思う人が大勢存在する。なぜこの親の下に生まれてきたのだと疑問をもったり、まわりの他人の生活が気ままに映ると腹立たしくなる。こうして“ものの考え方(価値観という)”がますます泥沼の中に入って抜けなくなる。これが不良や悪の世界に入るきっかけである。

書物の読み方は、素直な気持で一気に読んでしまうことである。“素直な気持で”というのは著者の気持をまず受け容れることである。最初からある態度をもって読むと、著者の述べていることに反撥を抱いたり貶すようになり、著者の考え方を拒絶する態度となる。“一気に読む”とは、著者の気持を受け容れる態度で同じ文脈の中で理解することができて、一貫した気持で読みとれる。そうすることで、著者が何をいいたいのか、著者の人生観や思想を読みとることができる。

著者のすべてに賛同する必要はない。読み進みながら、自分の生活観と対照させながら、賛成する部分とそうでない部分を明確にすればよい。その上で賛同できる部分を自己の価値観という金庫の中へ押し込めばよい。

書物を読むことは自己体験を広げることであり、体験しない世界を疑似体験で増大していくことである。書物を読みながら未知の世界のイメージが湧いてくるのが、そういうことである。早稲田大学を歩いている自分に乙武君の車イスが近づいて、「今日も元気」と声をかけてくれそうなイメージが湧けば、君は乙武君の生き方に共感したことになる。こうして、乙武君や大平さんが自分の心に宿るのである。

読 書 感 想 文

最後の将軍

— 徳川慶喜 —

環境都市工学科1年

浜 中 唯



私は最初、徳川慶喜という人物を少し軽く見ていました。ペリーの開国要求の脅しに負け、戦う何万という兵士を捨て、一人軍艦に乗って逃げた、というのが第一印象として強く残っていたからです。けれど、司馬遼太郎さんが描く徳川慶喜は、私の中の徳川慶喜とは正反対の位置にいて、びっくりしました。

私は司馬遼太郎の作品のうち、「国盗り物語」と「菜の花の沖」を読んだ事があります。司馬さんの言葉の使い方、話の進め方はどの作品も共通する所があり、またそれが読者を引き込んでいます。

徳川慶喜の出身は御三家と呼ばれる水戸家当主、水戸斉昭の第七子です。斉昭の正室、つまり慶喜の実母は有栖川宮家の王女、登美宮吉子で、聡明と美貌には宮廷でも定評がある程の方でした。吉子の第3子が後の徳川幕府第十五代目将軍として大政奉還を行った徳川慶喜でした。慶喜は幼少時の名前を七郎麿といい、乳母には育てられず、父斉昭の意向で国もとの武骨な藩士のもとで育てられました。十歳の時初めて斉昭に会った、というのだから、当時の大名の子等の苦勞がうかがえます。当時は、政府の為に、妻子を人質にしなければならなかった時代です。当時の人は、とても辛かったらうな、と思います。

さて、慶喜に初めて会った斉昭は、

「天晴、名将とならん。されどよくせずば手にあまるべし。」

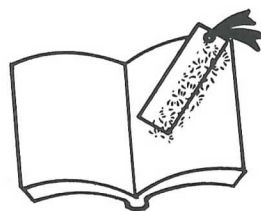
と言っています。この後、更に躰は強化され厳しくなっていきます。

時が過ぎ、司馬さんが一番ページを割いたのは

「大政奉還」の場面です。これは坂本竜馬が企画し、慶喜の決断によって事が為されました。坂本竜馬は、この大政奉還の文書を読み、泣き始めたそうです。最初、側にいた同志達は、大事を為し遂げた感動で泣いていると思ったそうですが、実は、坂本竜馬は慶喜の為に泣いていたのでした。慶喜は、抵抗のしようのない力に、あらがう事だったのに、自分を犠牲にしていたからです。坂本竜馬は、この時「自分の命を慶喜に捧げる」と言っています。坂本竜馬と慶喜は面識もありませんし、慶喜は坂本竜馬の事さえ知らなかったかもしれません。けれど、この二人は、二人の企画と決断によって歴史を動かしたのです。この事に気付いた時、私は言い様のない気持ちになりました。何だか、今まで慶喜に対してあった気持ちが薄らいでいって、逆に尊敬の念さえあるようになりました。

確かに、江戸幕府はその長い歴史の中で十五人の将軍を生み、支配を続けていました。慶喜はたった二年半で江戸幕府を終わらせました。けれど、それは日本の歴史には必要な事だったと思います。それから明治時代に入り、文明開化となったわけだし、慶喜はなるべくして将軍になったと思います。父斉昭の厳しい躰はある意味で正しかったのかな、と思いました。

大政奉還という大事はまさに、慶喜の自己犠牲の上に成り立ちました。慶喜ほど、激動の時代を生きた将軍もいないでしょう。私は、この本を読んで、慶喜のイメージが変わりました。一気に読ませてくれたのは、司馬さんの技法もあると思います。また、司馬さんの本を読みたいと思いました。



「そうゆうふうにできている」

さくらももこ著

建築学科2年

森川友紀子



この書物は、筆者のさくらももこさんが妊娠、出産したときのエピソードが書かれたエッセイです。

ももこさんは'93年におめでたになりました。この時私はちょうど『ちびまる子ちゃん』が大好きで、いつも彼女の描く漫画を見て笑っていました。彼女はそんな楽しい漫画を描きながら、実は妊娠中に起こる苦しみと戦っていたのです。

便秘になったり情緒不安定になったり、ホルモンの影響により色々苦しんだそうです。妊娠9ヶ月くらいの頃には、帝王切開になるかもしれないという不安に陥っていたのです。

当然仕事もやる気にならず、自信を無くしたりもしました。だけど彼女の夫に、「毎日ゆったりした気分で好きな事だけをすればいいよ。」

と言われ、救われたのです。彼女は現在は夫と別れていると思うのですが、この時は本当に感謝の気持ちでいっぱいだったと思います。

そして彼女はお腹を切って子供を産みました。手術をしている間に、彼女はこんな事を考えていました。

それは、脳と魂と心の関係です。これらは同じものなのか、どんな関係であるのか、その答えを手術中にみつけたのです。

彼女が言うには、魂とは意識のことで、意識のエネルギーが他の者と交流する為に機械（肉体）に乗り、機械の中の脳という部品が感情表現などをとり行うコンピューターシステムだということです。一方心は、実存はなく、意識が脳を使用している「状態」だとありました。

手術で局部麻酔が効いて、意識があるのに脳は休んでいることを経験して、その答えをみつけたのだと思います。

脳と魂と心は、そうゆうふうにできている。このエッセイのタイトルは、彼女が妊娠、出産、子育てを経て、「そうゆうふうにできているんだな

あ。」と痛感する事が多くあったからだだと述べてありました。私は、1つの命が誕生するまさにその時、さくらももこさんがみつけたこの3つの関係を一番伝えたかったのだと思います。

彼女のお腹からは男の子が誕生しました。「妊娠、出産」という彼女の身にふりかかった珍奇で神秘的な出来事は、全て「そうゆうふうにできている」から起こったのです。こんな愉快的な文章を書くことのできるももこさんもやっぱり人間で、人間も宇宙の生命体の一部にすぎないのです。

プラトンの対話篇『饗宴』を読んで

—えっ!?「愛」は醜い!?!—

建築学科3年

米司晴恵



「・・・エロスは美しいものに対する愛で、醜いものに対する愛ではないことになりますね。」
「そのとおりです」

「ところで、愛し求める対象は、自分に欠けていて所持していないものだという事は、了解したのではなかったかね。」

「そうでした。」

「するとエロスは、美しいものを欠いていて、それを持っていないことになるね。」

この文章は、ソクラテスと悲劇作家アガドンの対話の一部である。こうやって、ソクラテスはエロス（恋愛、愛の神）それ自身は美しいと認められないことを対話によって見事に導いた。

ここで「饗宴」という作品を簡単に説明する。この本の中の対話は、紀元前416年、ギリシャのアテナイで行われた悲劇のコンクール優勝者、アガドンの優勝披露パーティーでの様子を再現したものである。このパーティーには、ソクラテスをはじめとするアテナイの有名人が出席し、ある医者提案により、愛の神（といわれる）エロスを讃え合うことになった。8人の人物がそれぞれのエロスに対する考えを述べたが、ソクラテス以外は、美辞麗句でエロスをできる限り立派に見せようとしているだけで、真実を語っていない。最も、私はソクラテスに指摘されるまで、どの人の話も本当だと信じていたが。これがソフィストと

いうものなのだろうか、と思った。というわけで、私はソクラテスの話について書くことにする。彼の本論は、ソクラテスとディオティマ（プラトンが創った架空の巫女）の議論の回想シーンで成り立っている。では、話を元に戻すことにする。

「エロスは美しくない。」私はここまで読んで、単純に「エロスは醜いのか!？」と驚いた。ソクラテスも始めは私と同じように思ったようだ。しかし、ディオティマは、エロスは美しいものと醜いものの中にあるものだ教えてくれる。私は中間という考えに「なるほど!」と感心した。なにより、愛が醜いものでないとわかってよかった。ソクラテスとディオティマの対話は、自然に真実の愛・愛の究極の姿へ教え導いてくれ、私でも何度か読んでいくうちに、理解することができた。

ここで、ギリシャ時代のエロスと現代のエロスを比べてみたい。まず、「愛とは善いものが永遠に自分のものであることを求めている。」それは「幸福になる」ためである。このことは今でも共通していると思う。私も含め、人はいつでも幸せになりたいと願っている。最初に述べた「自分に欠けているものを愛し求める」というのも現代も変わっていない。

しかし、現代の愛と大きく異なる点がある。私はこの本を読んで初めて知り、とても驚いたのだが、ソクラテスらの時代に哲学者が語る愛というのは「少年愛」のことなのだ。今で言う「同性愛」になる。私は、「同性愛」と聞くと異常な愛というイメージが浮かぶが、ここでは素晴らしく、立派なものとして語られている。男性を愛する男性だけが、成人すると、政治に関わるようになるとされているからだ。ソクラテスもその一人だ。「少年愛」というのは、かなり年が離れた二人の愛で、恋愛と師弟愛の間のように感じた。

ソクラテスの話の結論は、少年愛の正しい道を通っていくことにより、「美そのもの」＝「美のアイデア」を観ることができるといえる。この段階に達すると真の徳を生産することができる。これは素晴らしいことだと思う。だが、美のアイデアを観ると、現実のものに心を奪われることがなくなるというので、これでは現実の世界で生きることがおもしろくなくなってしまうのではないだろうか。

私はこの本を読んで、ソクラテスの愛に対する考え方も素晴らしいが、人間的な魅力も感じた。

容貌はきれいでないし、無遠慮で酒飲み。それなのに、この人の言葉は不思議と人々を惹きつける。このギャップがたまらない魅力である。私も同じ時代に生きていたら、この人に夢中になっていたかもしれない。

バイセンテニアル・マン

アイザック・アシモフ著

電気工学科4年

川浪 徹



バイセンテニアル・マンとは、二百歳の人という意味である。作製されて二百年の間、人間に近づくためにひたむきな努力を重ね、遂に人間として認められたロボットの話である。心を持たないロボットにすぎなかった彼が、悲しみや愛といった感情を持つようになり、最終的に人として認められるためにとった行動には、非常に切ない気持ちにさせられた。その行動とは「死ぬ」ことだったのである。

では、人間とは何だろうか。ロボット、アンドリュウは、人間的な容姿、芸術性、自由を求める精神といった、人間しか持っていないような特性を身に付けていったが、それらが彼を「人間」と認めさせることはなかった。しかし、愛する家族ともいべき人の死を何世代にもわたって見てゆくうちに、人は死ぬが、ロボットは死なないこと、これがどうしても超えられない壁だと気づき、自ら「死ぬ」よう改造してしまうのである。その結果、彼は人間として認められた。では、人は「死ぬ」から人であるのだろうか。人が生き続けたいと願うのは何故か。考えさせられる。

この小説は、著名な科学者でもあるアシモフが1975年に書いたものである。作者は、将来人間の仕事の多くにロボットが関与するだろうと予言したが、四半世紀経った今日、銀行員に代わってATM、駅員に代わって自動改札が普及している。肉声に近い電子音で喋る機械さえある。アンドリュウは現れないまでも、アシモフの予想が形を変えて実現してきたといえよう。

だが、どんなに技術が進歩したとしても、アンドリュウが造られることはない。数学者のゲーテ

ルが言うように「人間によって造られたものは、必然的に人間に劣る」からだ。しかし、もしも人間になりたいというロボットが現れたなら、私はこのように言いたい。人間は死ぬから人間なのではない。生き続けようと努力するからこそ、人間なのだ。

朗読者

ベルンハルト・シュリンク著

機械工学科5年

角田佳子



この作品の登場人物は15歳の少年ミヒェエルと36歳の女性ハンナの話だった。2人は出会い愛し合った。彼は強くたくましく優しい彼女を愛し、悩み、苦しみ、そして喜びを得た。また、彼は彼女に頼まれ、いつも本を読んで聞かせていた。しかし、彼女は突然彼の前から姿を消した。彼女には誰にもいえない秘密があった。それは彼女が文盲であることであった。彼は大学に進み法学を専攻した。彼女との別れによる苦しみを忘れかけていたとき2人は再会した。法廷で。彼女はナチス時代に囚人を見殺しにしたという罪で一緒に働いていた仲間達と被告席にいた。彼女は文盲の秘密を知られたくないために罪をかぶったのである。彼はその秘密に気づき裁判官に言うべきか悩んだ。その秘密がばれることが刑務所で一生暮らすことよりつらいのだろうか、と。しかし、彼は言わなかった。彼女が恥じていると思ったからだ。彼は、彼女が刑務所に入ってからずっと本を朗読したテープを彼女に送った。それが自分の役目であるかのように。彼女は18年間刑務所で過ごした。その間に彼女は字を覚え本を読むようになっていた。彼女に恩赦が出て釈放が認められた。しかし、彼女はその前日独房で首をつって自殺した。

犯した罪は消えないが過去を背負って一生懸命生きてきた彼女の最期がとても寂しかった。

彼女は刑務所に入ることを選んだが、私はそうすべきでなかったと思う。一言で簡単に言えることではないが、文盲は克服できるけれど刑務所に入った18年間は二度と戻ってこないからである。私はプライドより自分の可能性を大切にしたい。

しかし、読み直して彼女がプライドを選んだ気持ちも理解できた気がする。

人間失格

太宰治著

専攻科 機械電気1年

野田善友



太宰治の“人間失格”，この作品の名前を知っている人は多いだろうが実際にどのくらいの人を読んだことがあるだろうか。

この作品は太宰治の遺書ともいわれるような作品で、実際彼はこの作品の執筆の約1ヶ月後に玉川上水で自殺を行なった。ではなぜ彼は自殺を行なったのだろうか。それは太宰治という人物にあると思う。彼はたえず厳しく自己批評し、自分の本心とは何か、世間、人間とは何か、自分自身は自分の本心をすべてわかっているのかと考え、自分自身を必死に見つめていた。普通の人ならなんら考えずそのままおりすぎていくような所で彼は立ちどまり、考える。しかし自分を完全にわかることはできず時間だけ過ぎていく。しかもその間彼はずっと考え続けているが答えはでない為、それでは自分はどうするのか、その結果彼は、死というものを選んだのだろう。これは普通の人なら、自分や考えることからの逃げであると思うだろう。実際自分もそう思う。しかし太宰は普通の人、つまりただ世間に順応し生きているだけの人間やその生活につきり、自分自身とは何か、世間、人間とは何か、を考えることができなくなることを恐れ、嫌ったのだと思う。

この作品の主人公である葉蔵やストーリーは彼自身や実際の彼の経験を多く取り入れている。そのためこの作品は彼にとってただの小説ではなく、自分の今までの人生や今の自分を考えていくための方法だったのだろうと思う。そしてこの作品の主人公の葉蔵が、自分は人間失格だと言っていることから彼は自分自身を死へ追いこんでいくためにこの作品を書いたのではないかといわれている。

この作品は読む人達に、生き方や、考え方についてとても強く問いかけているような作品だった。

新任教職員の随想

「読書のすすめ」

一般科目(英語)

江口 誠



履歴書の趣味の欄に「読書」と書いている人をよく見かけますが、「読書」は趣味の一つではありません。人間として当然の行為だと思います。他の国々では経済的、またはその他の理由で読み書きが出来ない人たちがいるでしょう。日本人である以上、「読書」は人間性・自己同一性を確立するために必要なものだと思います。

だからと言って、「難解な本」を読むことを薦めているわけではありません。私自身、小さな頃から単純な推理小説を好んで読んでいましたから。江戸川乱歩、赤川次郎、西村京太郎、等々。特に江戸川乱歩の小説は小学生の頃に無我夢中で読んだ記憶があります。

研究書以外では、やはりノンフィクションが好きですね。桜井よしこのエッセイ、漫画ではあるけれども漫画ではない、小林よしのりのゴーマニズム宣言(または対談集)。また、元監察医であり変死体解剖歴34年の上野正彦の「死体」シリーズも異色で面白いですね。呉善花、金文学・明学のエッセイもアジア諸国の隠れた(?)一面を知る上でとても面白いと思います。

ただ、最も大切なことは、色々な本を読んでいく中で、自己の意見を確立していくべきだということです。特にエッセイやノン・フィクションを読むと、当初はその著者の意見に影響されてしまうかもしれません。むしろ、その感覚は大事にするべきものでしょう。ハリー・ポッター等の本を読む上では感動する気持ち、共感できる気持ちなどが大切かもしれません。しかし、学生の皆さんには、あなたたちが触れる種々の本から得た情報を客観的に判断・分析する能力が必要になります。これから皆さんは、インターネットで氾濫する様々な情報を取捨選択する必要が生じるでしょう。それと同様に、読書を通じて色々な意見に出会い、確固たる意見を持ち、広い視野を持った人になって下さい。

書くためにも読書

建築学科

砂本文彦



私は本が好きだ。ついついと必要以上に買ったりを借りたりしてしまう。本に囲まれていると幸せを感じてしまうのである。こういう性癖になったのは21歳の頃、大学をとある事情で休学して、大量に発生した暇な時間をどう過ごすかが日々の課題となっていた時である。おまけに悩みや不満が多かった時期だったため、たまったストレスを読書で発散するというわけのわからないことをしていた。読書でストレス発散とは不思議な感覚だが、当時は自分なりに結構、真剣に世の中の不可解なことや、人とは何ぞやといった哲学的な問いを自分自身にふっかけては、随分と難解な図書を乱読し、それなりに納得、あるいは反感を抱いていた。そうこうしているうちに自分の考えがクリアとなって気分もすっきりしていたから、ストレス発散になっていたのである。読書とは不思議である。

この時の経験は、その後の私の本との付き合い方の元となった気がする。今でこそ寝食忘れて乱読することは全然ないが、割に要領よく本を読む、あるいは見る事ができるようになった。はっきり言って、読む必要は余り無くて、著者が何を言いたいのか、どういう事例を引用して、どういう論理を展開し、落としどころをどう設定しているかがわかれば、読んだも同然なのである。

あれから8年。私も著書や論文、雑文を色々書くようになった。それぞれ書き方や対象が異なるために気苦労が多いのだが、乱読のおかげで書き方の要点もつかめた気がする。まあ、要点をつかめたのとスラスラ書けるのは別であるが・・・。

学生諸君も、日々のレポート、卒業後には実社会で様々なレポート、論文を書くことになる。やはり、楽(簡単に、そして楽しく)に書こうと思うと、とにかく読書が基本である。まずは図書館に足を運ぼう。

留学生が紹介する外国の図書館

マレーシアの国立図書館

National Library

環境都市工学科4年

アイダ



私が中学生のとき、私はいつも家の近くにある大きな図書館へ通っていた。そこは国立図書館で、クアラ・ルンプールにある。

その図書館は地上4階、地下1階の建物である。そして、ビルの中は、西、中央、東の3つにわかれている。子供の本を貸し出す所は地下1階西にあり、大人の本を貸し出す所は1階中央にある。一回に借りられる本は3冊までで貸し出し期間は3週間で、その期限を過ぎると10セント、日本円にして約3円のお金を払わなければならない。

2階東では、国のさまざまな分野の雑誌や新聞、国が経営する会社（日本でいう旧国鉄や電電公社など）とその他個人が経営する会社の一年間の報告書がある。

2階中央では、マレーシア人によって、国内もしくは国外で作製した手書きによるマレーシアについてのいろいろな専門書がある。例えば、本、百科辞典、辞書、パンフレット、図書目録、地図などである。そして、マレー系の人々についての世界と文明に関して書かれた本などの写本がある。

逆に、UNが出版している本、百科辞典、辞書、年鑑などが3階東と中央においてある。インターネットやCD-ROMを使いたかったら、その階で使える。また、目の不自由な人たちのために設けられたコーナーが3階東にある。

4階東では、呉高専の視聴覚室のような所で、国内外のCDやカセット、ビデオ、レーザーディスク、教材、レコードなどがあり聞いたり、見たりすることができる。4階中央では外国の図書、雑誌、一年間の報告書、新聞などがある。



National Library

このようにこの国立図書館では、さまざまな設備が整っていて、ここでは紹介しきれないものがまだまだたくさんあります。

*UN…United Nations（国際連合）



図書館でのマナー

1. 無駄なおしゃべりをしない、静かにする。
2. 飲食をしない。ガムを噛まない。
3. 携帯電話、PHSの電源をOFFにする。
(電話する時は図書館のそとでしてください。)
4. 貸出図書の返却期限を守る。
5. 利用した図書は元の棚に戻す。

在外研究員報告

外国図書館紹介

建築学科助教授 間瀬実郎

ケンブリッジ大学図書館・法学部図書館

ケンブリッジは、ロンドンの北約70kmに位置する人口10万人程の比較的小さな町である。大学はカレッジ、学部、研究所などに別れ、町の至る所に散在している。大学の建物は時に住宅なのかB&Bなのか見分けがつかないほど町に溶け込み、町と大学がひとつになった町になっている。図書館も、各カレッジ、学部、研究所にそれぞれ存在し、とても全てを見て回ることは出来なかった。

そんな中でも、ケンブリッジ大学図書館(写真1)は、大学全体の図書館として位置づけられており、そのひときわ大きな建物は大学のシンボリックな存在であった。内部は数十から成る大小の部屋で構成されており、各分野の本が所狭しと書架に並んでいる。私も何度か足を運んだが、文献を探し出すには、データベースが示した部屋名と書架名を片手に、迷路の中を1日中さまようようであった。またここには、ニュートンやダーウィンなどの歴史的な著名人が記した原書なども保管されており、さながら博物館の要素も呈していた。図書の種類は古い物が多いため、歴史的な文献の調査にはこの上ないのだろうが、新しい文献の調査には、別の科学論文図書館などを利用した。



▲写真1 ケンブリッジ大学図書館



▲写真2 ケンブリッジ大学法学部図書館

大学図書館のすぐそばには、法学部の建物がある。そこには最近出来た法学部図書館(写真2)がある。これはイギリスの著名な建築家Sir Norman Fosterが設計したもので、湾曲したガラス張りの壁が特徴的な建築である。地下にはホールやカフェもあり、講演などに利用されているようである。私は法律にはほとんど興味はないが、この図書館の内部空間が好きだった。本は持参し空間だけを借りによく足を運んだ。

半透過ガラスの向こうには、イギリスの典型的なコテージと芝生が映り、静かな空気が流れていた。

帰国して半年以上が経つが、今でもケンブリッジは、まるでとなり町であるかのように、近く感じられる。毎日大学へ通った道や、夕食を買った店など、はっきりと思い浮かべることが出来る。私にとって在外研究員の経験は、忘れることの出来ないものであると同時に、これからの生き方に大きく影響を与えてくれるような気がする。



新着図書10選

ローラ叫んでごらん—フライパンで焼かれた少女の物語—

リチャード・ダンブロジオ著 講談社

この書は、私が大学時代に教育心理学の講義中に紹介された実話にもとづく話である。一才のとき両親によってフライパンで焼かれ、皮膚の半分が焼けただけ、その後人間らしい扱いを拒まれて、うち捨てられたも同然だった赤ん坊ローラ。著者ダンブロジオ博士は献身的な努力によって、生ける屍、言葉を失ったローラを一人の人間として成長させていったのである。幼児虐待などの事件にみられる現代社会の人命軽視の風潮に痛烈な反省を迫る記録である。

(宇根 俊範記)

C 入門

浦 昭二・原田賢一共編 培風館

本書は、C言語の入門的テキストである。全体を通して、具体的な例題を解説しながら、文法やプログラミングが理解できるように工夫されている。第I部は、データの入出力・簡単な数値計算や論理演算・関数や配列を用いたプログラミングなどを説明している。第II部は、第I部で一通りC言語の基本を学んだ人が、さらに進んで、C言語のもつ機能を使ったプログラミングを学べるよう解説している。

(野原 稔記)

構造化 FORTRAN77

プログラミング環境, WATFOR-77

川添良幸・静谷啓樹共著 培風館

WATFOR-77は、FORTRAN77を包含した上に、コンパイル時間が短い、構造化した記述が可能であるなど、様々な優れた特徴を備えた高水準言語である。本書はWATFOR-77による構造化プログラミングについて、その基本文法から実用的なレベルまでを、幅広く利用できることを目指して書かれている好適な入門書である。

(野原 稔記)

職人と匠 —“ものづくり”の知恵と文化

金子量重〔ほか〕著 技報堂出版

美的感覚と人間性に乏しいとされて来た土木構造物も、近年は自然と調和のとれた、人にやさしい開発や構造物の建設がなされるようになったがまだ十分ではない。このような土木構造物に不足がちな「心」、「技」、「文化」について、民族造形、江戸職人文化、土木技術の風土工学にかかわってきた3人の著者の、それぞれの立場からの経験と研究成果に関するお話しである。これからの土木技術者へ必要な常識ではないだろうか。

(石井 義明記)

「高校からの化学入門」

竹内敬人著 岩波書店

高校化学の知識を前提にそれを活用すれば最先端の化学についてもある程度理解できる、と言うのがこの本の趣旨である。全4冊からなり、第1冊の「なぜ原子はつながるのか」は原子と分子、分子をつくる結合の話と化学の基礎を、第2冊の「分子の形と性質」は化学構造の決め方やその意義を扱っている。第3冊の「化学反応のしくみ」では反応速度や化学平衡を、第4冊の「物質を設計する」では合成が扱われ、合成法も紹介されている。

(小山 通栄記)

スペースクラフトの制御

木田 隆著 コロナ社

宇宙空間では地上と違って重力は働かない。すべての物は自由で、慣性に従って動いている。自分の意のまま操るのはたいへんです。日々お世話になっている人工衛星をどうやって操縦しているのだろうか。本書の題のスペースクラフトは宇宙船、その運転はどうすればいいのだろうか。その時どんな問題が起るのだろうか。これらの疑問に正面から答えてくれるのが本書である。内容は少し？高級。

(山崎 勉記)

『図説世界建築史』全 16 巻

(本の友社)

このシリーズはもともとイタリア・ミラノで出版されたもので、現在、翻訳され継続刊行中です。図書室にも既に何冊か入っております。西洋建築史の叢書のうちでは最新であり、写真、図版も豊富なのでたいへん参考になり、また見ても楽しい。今後も継続して入れる予定ですから、楽しみにして下さい。

(岡本 二郎記)

『日本の町なみデザイン』

増田史男著 (グラフィック社)

文化庁が中心となって全国の歴史的町並み保存を目的に、重要伝統的建造物群保存地区の指定が進められている。現在、全国で50ヶ所以上の町並みが指定を受けており、広島県内では竹原市の竹原地区、豊町の御手洗地区の2地区が対象となっている。この本は、写真と説明文を付けて現在、指定を受けている町並みを紹介してくれる。

(岡本 二郎記)

「ファインマンさんの愉快な人生」

ジェームズ・グリック著 岩波書店

奇想天外な話題と科学への情熱に満ちた自らの体験を書いた「ご冗談でしょう、ファインマンさん」の著者で知られる、ノーベル賞物理学者リチャード・ファインマン。人が頭を抱える難問も、電光石火の閃きでズバリ解決し、未知のものを認め、それを心から楽しんだその人生はこの上なく痛快で、型破りである。ラジオいじりをはじめた少年時代から、スペースシャトル爆発事故調査での活躍までの半生が書かれている。

(小山 通栄記)

量子エレクトロニクスの基礎

大津元一著 裳華房

今世紀の大発明の一つにレーザーが挙げられる。半導体レーザーは、CD や光通信に大活躍している。その他にもさまざまな分野で活用され、工業技術の一部としてまた精密測定の中核を支える技術としてレーザーがある。レーザーの原理から基

礎技術までを、量子力学的理論をまじえながら詳しく分かりやすく説明している。レーザーの専門知識が要求される者にとっても本格的入門書である。

(山崎 勉記)

建設事故重大災害70例に学ぶ再発防止策

日経コンストラクション編 日経BP社

建設工事における災害は労働災害の中で最も多い。これは比較的未熟な労働者が工事に従事している可能性と採算の重視とともに現場責任者の安全管理に対する認識が浅い事も一因である。

この書籍は過去10年間に起きた重大事故、約70例について、発生メカニズムや原因を写真や図表を使って解説した事故事例集である。事故を未然に防止する工夫や民事訴訟の判例もあり、建設工事に従事しようとする技術者の必読書である。

(石井 義明記)

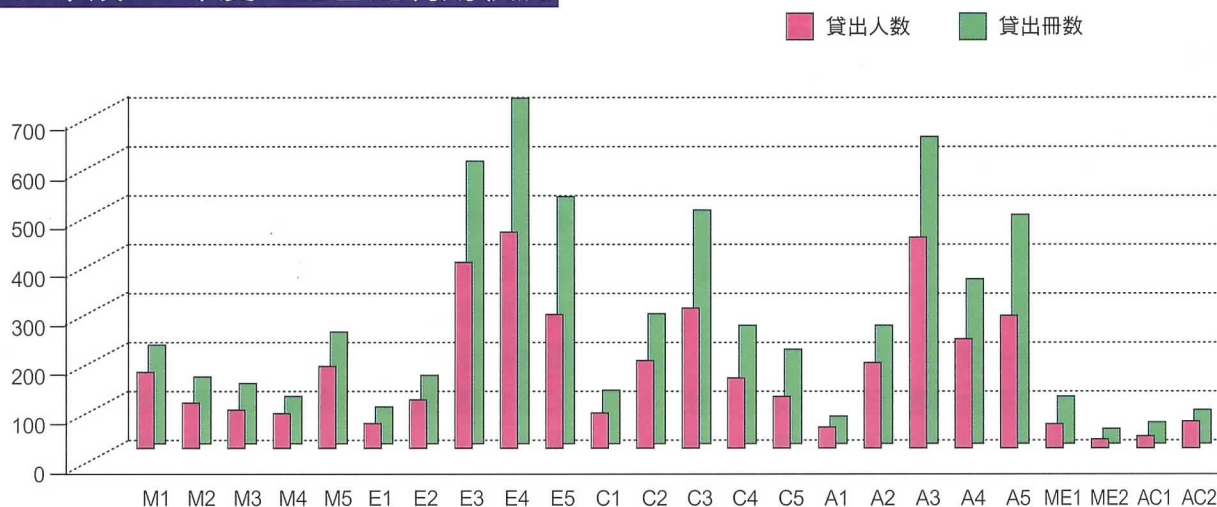
貸出回数上位ベスト10

(調査対象期間：平成12年4月1日～8月31日)

順位	書名・著者名
1	電気測定法 改訂版 電気学会大学講座 電気学会通信教育会編
2	高周波計測 改訂版 守山喜代松著
3	一般常識スピードチェック 就職情報研究会編
4	新編高専の数学, 問題集 2 田代嘉宏編
5	新編高専の数学, 問題集 3 田代嘉宏編
6	顔 (下) シドニィ・シェルダン著, 天馬龍行訳
7	考え方解き方 土質力学 第2版 近畿高校土木会編
8	顔 (上) シドニィ・シェルダン著, 天馬龍行訳
9	切削工作機械 第2巻 A.G.ナルチャン著 長谷川一郎訳
10	ゲームの達人 (上) シドニィ・シェルダン著, 天馬龍行訳

お知らせ

1. 平成11年度 図書館利用状況



学年学科	M1	M2	M3	M4	M5	E1	E2	E3	E4	E5	C1	C2	C3	C4	C5	A1	A2	A3	A4	A5	専機電		専建設	
																					1	2	1	2
貸出人数	144	86	73	66	155	47	92	352	409	253	67	166	265	133	98	40	162	399	207	251	46	17	23	51
貸出冊数	198	134	121	95	224	74	137	566	692	495	107	260	468	237	189	55	237	615	330	459	95	30	43	68

2. 図書館への入館及び図書貸出方法の変更について

10月1日から学生の学生証がプラスチック製のカードに一新されました。また、教職員については、来年4月から導入する予定です。これに伴ない、図書館ではこのカードで入館・図書貸出をするように変更しましたのでお知らせします。

なお、学外利用者等一部の方については、引き続き図書利用票を使用していただくことになりました。また、学生でまだ図書利用票を持っている人は図書館へ返却して下さい。

3. 呉高专図書館ホームページをご存知ですか？

ホームページ (URL <http://wwwlib.kure-nct.ac.jp/libhome.html>) で次の情報を調べることができますので、是非一度お立ち寄りください。

- ・図書館利用案内
- ・新着図書情報
- ・CD, LD, DVD 所蔵リスト
- ・呉高专の図書館蔵書検索
- ・全国大学図書館の蔵書検索
- ・全国高专マップ
- ・長岡技術科学大学提供の外国雑誌目次データベース検索など

編集後記

図書だより第40号をお届けします。原稿をお寄せいただいた皆様には深く感謝申し上げます。最近、ゆっくりと腰をおちつけて読書する時間が持たなくて困っています。皆様はどうでしょう。こういう時には、できるだけ書店や図書館に行って“本のつまみ食い”をするようにしています。ただ、たくさん本を衝動買いしてしまい、財布の中が淋しくなってしまいます。最近読んだ本の中の一文を紹介します。恋愛中の学生諸君には胸に刺さる一文ではないでしょうか。「男は常に女の初恋の人になろうとするし、女は常に男の最後のロマンスになろうとする」「人は恋に落ちると、まず自分を欺き、最後に他人を欺く」(ワイルド『ドリアン・グレーの肖像』)

(図書館長補 宇根 俊範)